

(性感染症定点13, 基幹定点1)

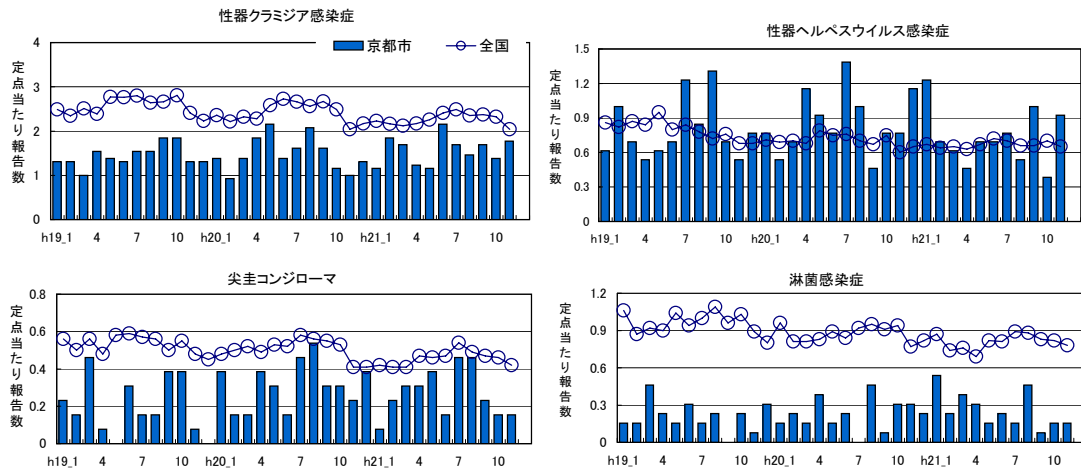
◆ 今月のコメント

性感染症について、性器クラミジア感染症の定点当たり報告数は、1.77(報告数23例)で、年齢階級別では、15～39歳で報告があります。性器ヘルペスウイルス感染症の定点当たり報告数は、0.92(報告数12例)で、20～29歳、35～44歳、55～64歳で報告があります。尖(せん)圭(けい)コンジローマの定点当たり報告数は、0.15(報告数2例)で、20～29歳で報告があります。淋(りん)菌感染症の定点当たり報告数は、0.15(報告数2例)で、35～39歳で報告があります。

薬剤耐性菌感染症について、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症及び薬剤耐性緑膿菌感染症の報告はありません。全国のメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症の定点当たり報告数は3.81、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症は0.86、薬剤耐性緑膿菌感染症は0.08です。

<性感染症>

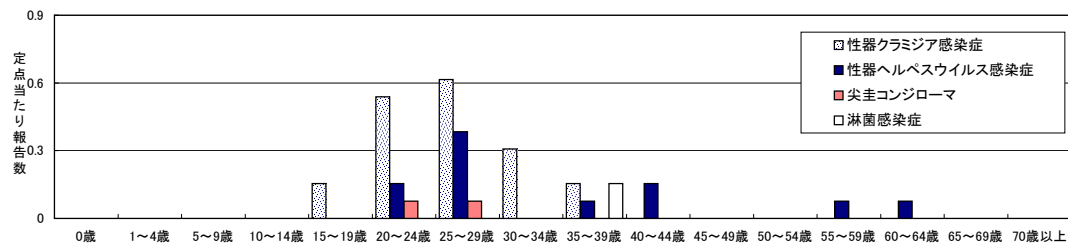
定点当たり報告数の推移(平成19年1月～)



平成21年の報告数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計報告数
性器クラミジア感染症	15	24	22	16	15	28	22	19	22	18	23		224
性器ヘルペスウイルス感染症	16	9	8	6	9	9	10	7	13	5	12		104
尖圭コンジローマ	1	3	4	4	5	2	6	6	3	2	2		38
淋菌感染症	7	3	5	4	2	3	2	6	1	2	2		37

11月の年齢階級別定点当たり報告数



<薬剤耐性菌感染症>

平成21年の報告数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計報告数
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

なお、京都市内の各保健所では、平成19年4月から、性感染症検査の充実を図るため、HIV抗体検査と同時に、梅毒、淋菌感染症、性器クラミジア感染症、B型肝炎、C型肝炎の検査を実施しています。日程等、詳細については、保健医療課のホームページ(「京都市保健医療課」で検索)に掲載しています。

(注:京都市のデータは現在報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。)